

第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成27年10月14日(水) 5校時
学 級 2年B組(男子14名・女子10名 計24名)
会 場 2年B組教室
授業者 黒田昌江

1 単元名 いにしへの心を訪ねる 「仁和寺にある法師」—徒然草から—

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、「C読むこと」の「イ文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。」「伝統的な言語文化に関する事項」第2学年の「ア(ア)作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しんでいる。」「ア(イ)古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像している。」の内容を受けて「エ文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをまとめること。」と設定されている。

徒然草は代表的な随筆集の中の一つである。読みやすくわかりやすい内容であり古典に親しむうえでふさわしい内容であるといえる。兼好法師の自然・人生観、社会に対する批評、鋭い人間観察など自由なもので見方で、現代にも通じる人間心理が随所に描かれている作品である。

第52段では、主人公の勘違いの結果失敗してしまうという内容は、生徒が身近なものに感じられ興味を持って読みすすめることができ、また、そこから自分自身の生活を振り返らせ、古典により親しみを持ってとらえることができる教材である。

(2) 生徒観

昨年度のCRTにおける通過率は次のようになっている。

小問内容	全国通過率	本校通過率
心情の読み取り	28	28(—)
古文・音読の理解	39	40(↑)
話し合い・言葉遣い	76	72(↓)
資料を読み取り書く	60	55(↓)

学習に対する姿勢は真面目で、字も丁寧であり人の話を聞く態度も概ね良好である。ただ、進んで発言したり、自分の考えを書いたり、古文全般に関して苦手意識を持っている生徒が多い。また、そのせいか、グループ学習で自分の意見を述べることに抵抗があり、話し合いが深まらないで終わることが多い。そこで、考えたことを少しでも表現できるためにも、思考しながら書く段階での手立てを講じていきたい。

(3) 指導観

本単元の学習を展開するにあたっては、法師が「勘違いした理由」がわかる根拠を見つけ出させ、次に、その理由を考えさせることによって内容読解を深めさせる。登場人物の「失敗」が自分にもあり得る身近なこととしてとらえることができるようにしていきたい。そして、筆者が最後に伝えたかった部分の内容を生徒の言葉でまとめさせる。また、グループで交流させることによって、深めさせ自分の考えを広げる一助とし、古文のもつ面白さを味わわせたいと考える。

本時は、第三次につながるための重要な部分であり、筆者の考えや自分自身の考えをしっかりと持たせるために、個からグループの話し合い、そして、個に返すというやりとりの中で思考判断させるものである。そこで、確かな自分の意見を持たせるために考える視点を押さえさせ、自分の考えを持たせてから文章にしていく活動につながるよう指導する。

(4) 研究主題との関わり

研究主題	主体的に学習する生徒の育成 ～言語活動の充実を図る教科指導のあり方～
国語科で求める 「主体的に学習する姿」	① 古典作品の面白さを味わい、興味関心を持って意欲的に学習に取り組むもうとしている。 【関心・意欲・態度】 ② 交流活動を通して、自分の考えを伝えたり相手の考えを聞くことができる。 【聞くこと・話すこと】 ③ 現代語訳などを生かして、自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現している。 【書くこと】 ④ 物語の展開を理解し、当時の人々の生活や文化、ものの見方や考え方を現代と重ね、比較してとらえている。 【読むこと】 ⑤ 古典における仮名遣いや言葉遣い、表現技法や重要語句について理解している。 【言語についての知識・理解・技能】
本時の言語活動	①状況把握を行うことで、筆者の考えを読み取ることができる。 ②自分の考えをグループ内で発表し、聞いて自分との違いがわかる。 ③自分の考えをまとめ、自分の言葉で書くことができる。

3 単元の指導計画

(1) 単元の見通し

- ①古典作品を読み味わう学習を通じて、その内容の面白さに気づき、今後の読書活動にいかそうとする。
【関心・意欲・態度】
- ②文章に表れている作者のものの見方や考え方を理解し、知識や経験と関連付けて自分の考えをまとめることができる。
【読むこと】
- ③現代語訳を手掛かりにして、登場人物や作者の思いに触れ、現代との共通点に気付くことができる。
【言語についての知識・理解・技能】

(2) 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・古文についての感想をもち、交流して考えを深めようとしている。	・登場人物の言動の意味を考えて古文の内容を理解し、自分の感想をもっている。(イ) ・古文に表れているものの見方や考え方について、自分の知識や経験と関連付けて感想をまとめ、交流して深めている。(エ)	・古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いを想像している。(ア(イ))

(3) 指導計画及び評価計画（6時間扱い）

次	時間	学習活動	関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
第一次	1	・徒然草の概要を把握する。 ・序段を音読し、古典のリズムに慣れる。	徒然草の概要を理解し、序段の内容を考えながら音読しようとしている。	序段の内容を捉え、筆者の考え方にふれている。	歴史的仮名遣いや古文独特の言葉遣いに注意しながら音読している。
第二次	2	・「仁和寺にある法師」の内容を理解する。		内容をとらえ、大まかにまとめている。	重要な役割を果たしている語句に注意しながら読んでいる。
	3 本時	・兼好法師が伝えたかったことを考える。		兼好法師のものの方や考え方について読み取っている。	知識や体験と関連付けて自分の考えを持つようとしている。
第三次	4	・他の章段の中から好きなものを一つ選び内容を理解する。	自ら進んで朗読しようとしている。	選んだ章段のおおまかな内容をつかんでいる。	
	5	・兼好法師のものや人を見る目を考え、感想の交流のためのシートを作る。		自分の知識や経験と関連付けて考えている。	意見文の構成を理解するとともに、相手を説得するような効果的な体験を書いている。
	6	・発表交流する。	違いに気付き、自分の考えを広めようとしている。	自分の考えと比較して判断している。	

4 本時の指導

(1) 本時の目標

①登場人物の行動を踏まえて場面の状況を理解し、筆者のものの方や感じ方を読み取ることができる。

【読むこと】

②登場人物が勘違いした理由について理解し、自分の体験と関連付けて自分の考えをもつことができる。

【言語についての知識・理解・技能】

(2) 本時の評価規準

評価の観点	A	B	支援の手立て
読むこと	勘違いした理由を一つ以上みつけることができ、どうすれば良かったかまで考えている。	勘違いした理由を一つ以上見つけている。	古文中から理由となり得る根拠をヒントに与える。
言語についての知識・理解・技能	筆者の主張を自分の経験と照らし合わせ 150 字程度でまとめている。	自分の考えを 150 字程度で書いている。	自分にも似たような経験があったかどうか想起させる。

(3) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	留意事項(・) 評価(☆) 支援(○)
導入 5分	1 既習事項の確認 2 学習課題確認	・「徒然草」の序段部分の暗唱 ・「仁和寺にある法師」の音読	・勘違いの内容を想起させる。
法師の勘違いの理由をふまえ、自分との共通点を考えよう。			
展開 38分	3 見通す 4 自力解決 5 共同思考 ・グループで出し合い交流する。 ・全体で発表する。 6 自力解決 ・自分の考えをまとめる。 (150字程度)	・大意の確認 ・法師が勘違いした理由について自分の考えをまとめる。 ・自分の考えをグループで交流し、考えを伝え合う。 ・代表者が発表する。 ・法師の失敗をふまえ、自分の体験と結びつけてまとめる。 ・法師が失敗しないためにはどうすればよかったのかを考える。 ・自分の経験に置き換えて共通点を探る。	○根拠になる言葉をヒントとして与える。 【言語活動】：読む ☆古文と現代語訳を対応させながら、原因を考えることができる。 【読むこと】 【言語活動】：話し合い ☆自分の考えをグループ内で発表し、聞いて自分との違いがわかる。 【言語の理解】 【言語活動】：書く ☆自分の考えをまとめ、自分の言葉で書くことができる。 【言語の理解】 ○机間支援しながら、記述状況を把握する。
終末 7分	7 本時のまとめ 8 自己評価をする。 9 学習の振り返りと次時の学習内容を知る。	・発表する。 ・評価シートに記入する。 ・次時の予告として、「徒然草」の他の段を読むことを伝える。	・数人の生徒に発表させる。 ・考えを広げるために、自分の考えと比較させる。